

自ら評価に関する意見交換会アンケート結果

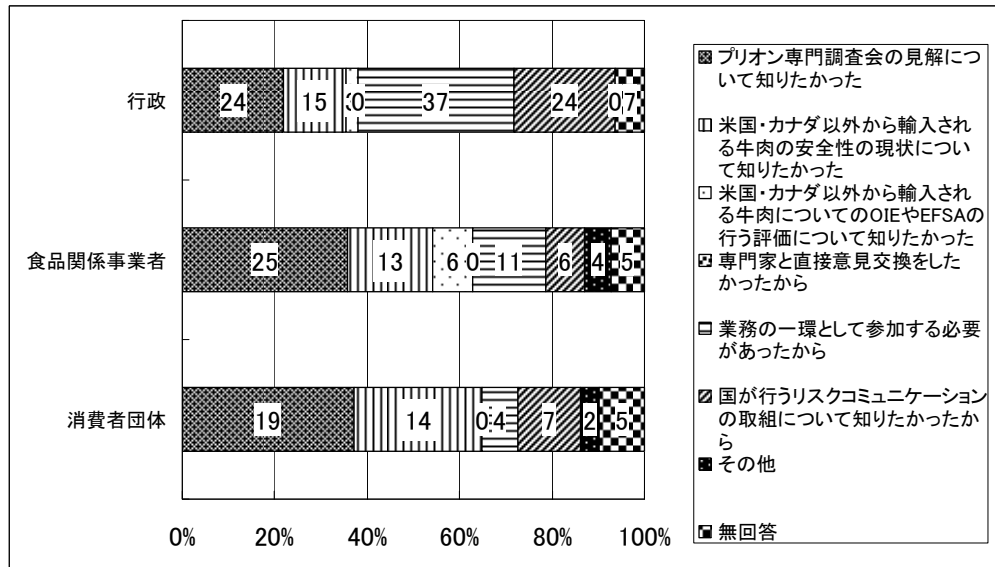
1. 我が国に輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価の実施について

(アンケート結果を抜粋し、属性別に集計)

開催日：2007年4月23日、24日、25日、27日

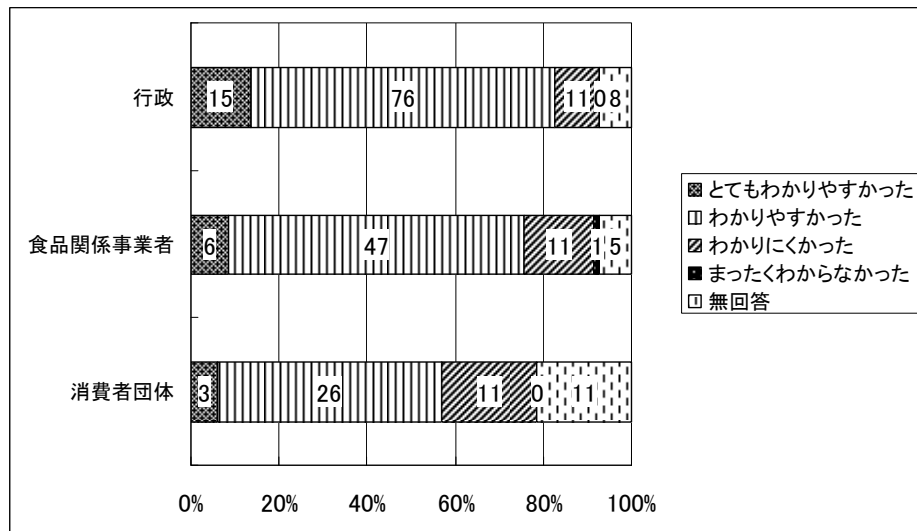
参加者数：366名 回答者数：284名 回答率：77.6%

問1 ⑤ 本日の意見交換会に参加された動機



- ”意見交換をしたかった” と答える人はいない。
- ほとんどが、情報収集が目的と思われる。

問2 ⑤ パネルディスカッション



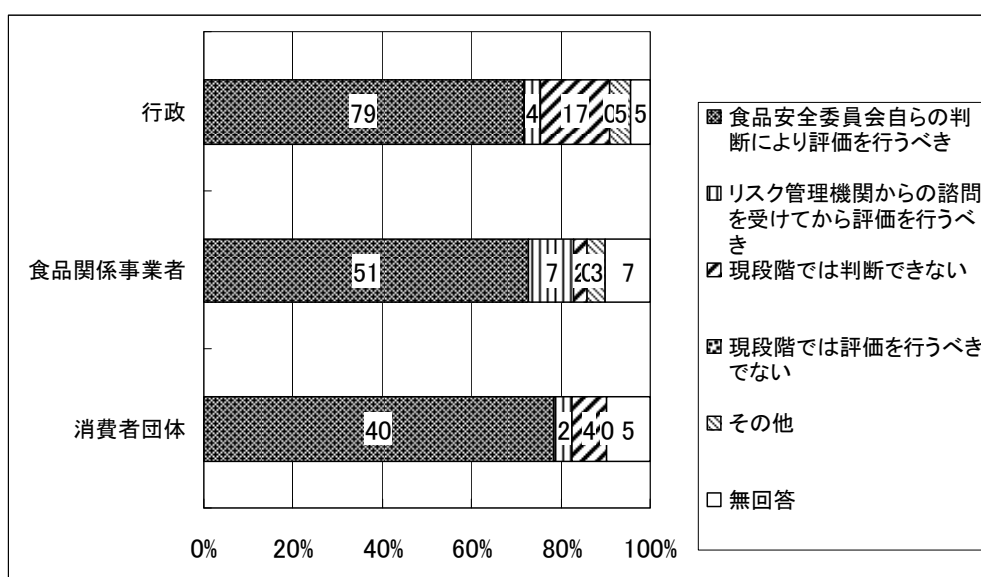
- 消費者団体の人は、”わかりやすかった” と答える人が少なく、”わかりにくかった” と

答える人が多い傾向。

〈パネルディスカッションが”わかりにくかった””全くわからなかった”と答えた方のコメント〉

・パネリストの発言が吉川氏に集中するのは当然だが、食品安全委員会の事案であるなら、委員を数人入れるべき。・毎回思うが、閉会の時間が守られたことがない。限られた決められた時間の中でできないのは、事務局の勝手だ。

問3 意見交換会に参加して、食品安全委員会が自らの判断により米国・カナダ産以外の牛肉等のリスク評価を行うことについて、どのように思われましたか。



# 食品に関するリスクコミュニケーション —我が国に輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価の実施について— アンケート集計結果

開催日:2007年4月23日・24日・25日・27日  
参加者数:366名 回答数:284名 回答率:77.6%

問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きます。

① 性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	209	73.6%
2. 女性	75	26.4%
合 計	284	100.0%

② 年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	18	6.3%
3. 30歳代	44	15.5%
4. 40歳代	93	32.8%
5. 50歳代	81	28.5%
6. 60歳代	41	14.4%
7. 70歳以上	6	2.1%
無回答	1	0.4%
合 計	284	100.0%

③ 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	51	18.0%
2. 主婦、学生、無職	24	8.5%
3. 生産者(農林水産業従事者 など)	4	1.4%
4. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	70	24.6%
5. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	4	1.4%
6. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	110	38.7%
7. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	5	1.8%
8. その他	12	4.2%
無回答	4	1.4%
合 計	284	100.0%

④ 本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会のホームページ	57	20.1%
2. 食品安全委員会からの案内資料	80	28.2%
3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	37	13.0%
4. 関係団体からのご案内資料	74	26.1%
5. 知人からの紹介	10	3.5%
6. その他	22	7.7%
無回答	4	1.4%
合 計	284	100.0%

⑤ 本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1. 「我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響 評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について」が知りたかったから	86	30.3%
2. 米国やカナダ以外から輸入される牛肉の安全性など現状について知りたかったから	49	17.2%
3. 米国やカナダ以外から輸入される牛肉についてのOIEやEFSAの行う評価について知りたかったから	11	3.9%
4. 専門家と直接意見交換をしたかったから	0	0.0%
5. 業務の一環として参加する必要があったから	55	19.4%
6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから	51	17.9%
その他	6	2.1%
無回答	26	9.2%
合 計	284	100.0%

⑥「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか

回答内容	件数	割合
1. 強くそう思う	170	59.8%
2. ややそう思う	83	29.2%
3. あまりそう思わない	11	3.9%
4. 全くそう思わない	5	1.8%
5. わからない	5	1.8%
無回答	10	3.5%
合 計	284	100.0%

問2 本日の意見交換会についてお聞きます。それぞれあてはまるところを○で囲んでください

① 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	27	9.5%
2. 適切だった	213	75.0%
3. あまり適切ではない	24	8.5%
4. 全く適切ではない	1	0.3%
無回答	19	6.7%
合 計	284	100.0%

② 開催方法(参加手続き・場所・所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	26	9.2%
2. 適切だった	198	69.7%
3. あまり適切ではない	45	15.8%
4. 全く適切ではない	2	0.7%
無回答	13	4.6%
合 計	284	100.0%

③ 配布資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	33	11.6%
2. わかりやすかった	218	76.8%
3. わかりにくかった	20	7.0%
4. 全くわからなかった	1	0.4%
無回答	12	4.2%
合 計	284	100.0%

④ 専門家による講演

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	50	17.6%
2. わかりやすかった	184	64.8%
3. わかりにくかった	29	10.2%
4. 全くわからなかった	3	1.1%
無回答	18	6.3%
合計	284	100.0%

⑤ パネルディスカッション

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	30	10.6%
2. わかりやすかった	179	63.0%
3. わかりにくかった	42	14.8%
4. 全くわからなかった	3	1.1%
無回答	30	10.5%
合計	284	100.0%

⑥ 意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	26	9.2%
2. わかりやすかった	174	61.3%
3. わかりにくかった	22	7.7%
4. 全くわからなかった	1	0.3%
無回答	61	21.5%
合計	284	100.0%

⑦ 意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	55	19.4%
2. わかりやすかった	158	55.6%
3. わかりにくかった	27	9.5%
4. 全くわからなかった	2	0.7%
無回答	42	14.8%
合計	284	100.0%

問3 本日の意見交換会にご参加されて、食品安全委員会が自らの判断により米国・カナダ産以外の牛肉等のリスク評価を行うことについて、どのように思われましたか。下記から選んで1つに○をつけてください。

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会が自らの判断により、評価を行うべきだと思った。	203	71.5%
2. リスク管理機関(厚生労働省、農林水産省等)からの諮問を受けてから、評価を行うべきだと思った。	18	6.3%
3. 現段階では、食品安全委員会が自らの判断によって評価を行うべきか、リスク管理機関からの諮問を受けてから評価すべきか。	32	11.3%
4. 現段階では、評価を行うべきでないと思った。	3	1.1%
5. その他	10	3.5%
無回答	18	6.3%
合計	284	100.0%

問5 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、○をつけてください。

回答内容	件数	回収数に対する割合
1. 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと (原則公開されていること)	129	45.4%
2. 食品安全委員会ホームページ	220	77.5%
3. 食の安全ダイヤル	104	36.6%
4. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	114	40.1%
5. 食品安全モニター制度	107	37.7%
6. 季刊誌『食品安全』	118	41.5%
7. 食品の安全性に関する用語集	103	36.3%
8. 食品の安全性に関する政府広報	77	27.1%
9. その他	2	0.7%
無回答	31	10.9%
合計	1005	-

問6 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。当てはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

回答内容	件数	回収数に対する割合
1. 食品添加物	91	32.0%
2. 残留農薬	94	33.1%
3. 食品中に存在する汚染物質・化学物質	88	31.0%
4. 遺伝子組換え食品	85	29.9%
5. 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)	44	15.5%
6. BSE	46	16.2%
7. 食中毒(微生物・ウイルス・かび毒・自然毒)	39	13.7%
8. 鳥インフルエンザ	42	14.8%
9. 新開発食品	27	9.5%
10. いわゆる健康食品	75	26.4%
11. リスクコミュニケーション	37	13.0%
12. リスク分析の考え方	42	14.8%
13. 食育	42	14.8%
14. その他	8	2.8%
無回答	22	7.7%
合計	782	-

## 2. 食中毒原因微生物のリスク評価案件の選定に関する意見交換会

(アンケート結果を抜粋し、属性別に集計)

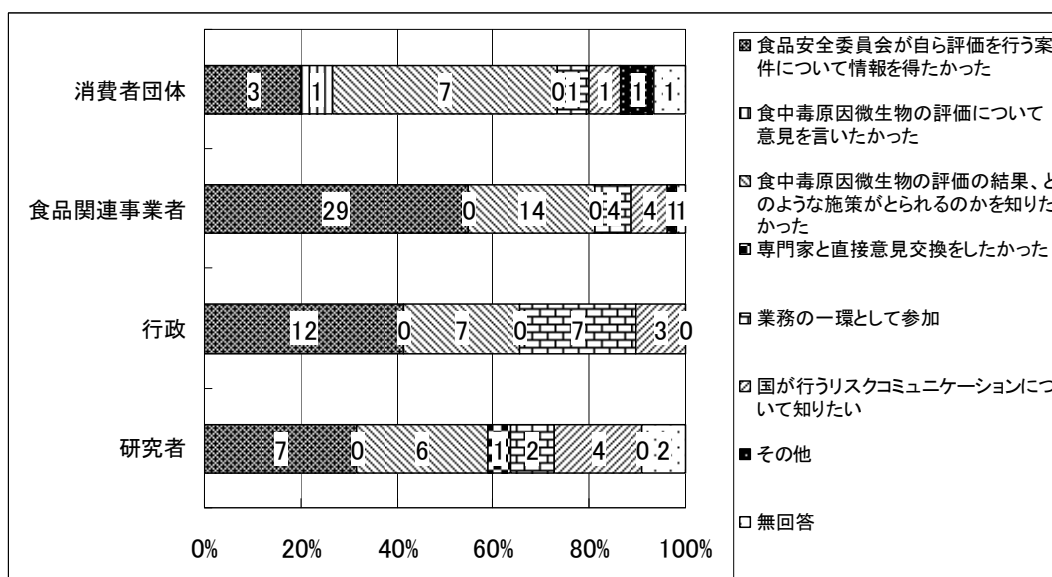
開催日：2007年6月22日(金)、25日(月)

参加者数：173

回答数：152

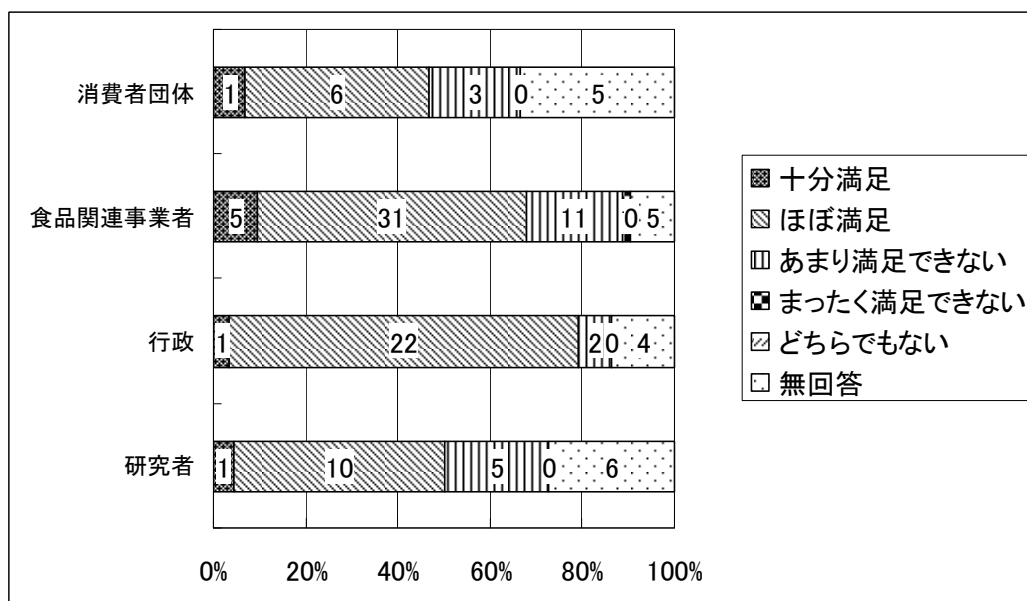
アンケート回答率：87.9%

### 問1 ⑤意見交換会に参加された目的



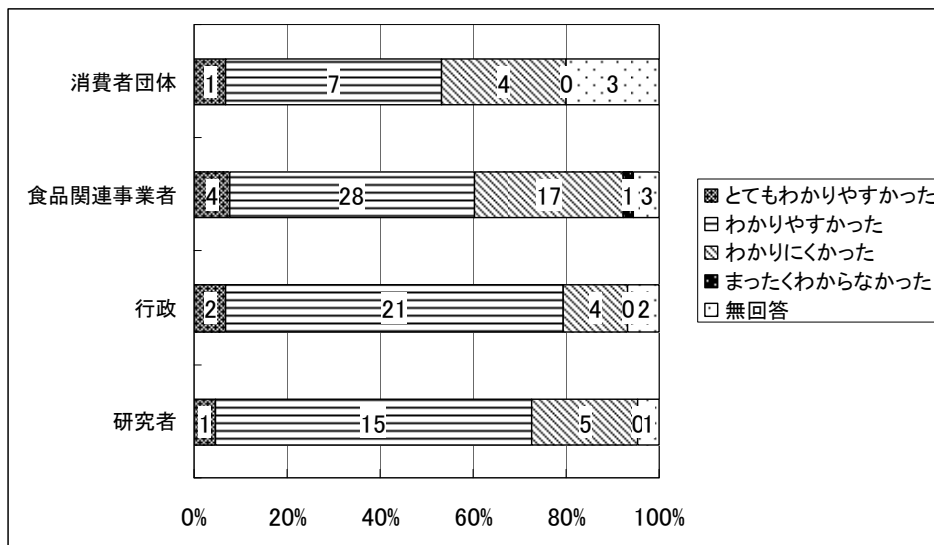
● ”意見を言いたい”、”意見交換をしたい” という人はほとんどいない。

### 問1 ⑥参加目的に対する満足の種類



●属性により、満足度にわずかではあるが違いがある。

問2 ⑤パネルディスカッションのわかりやすさ



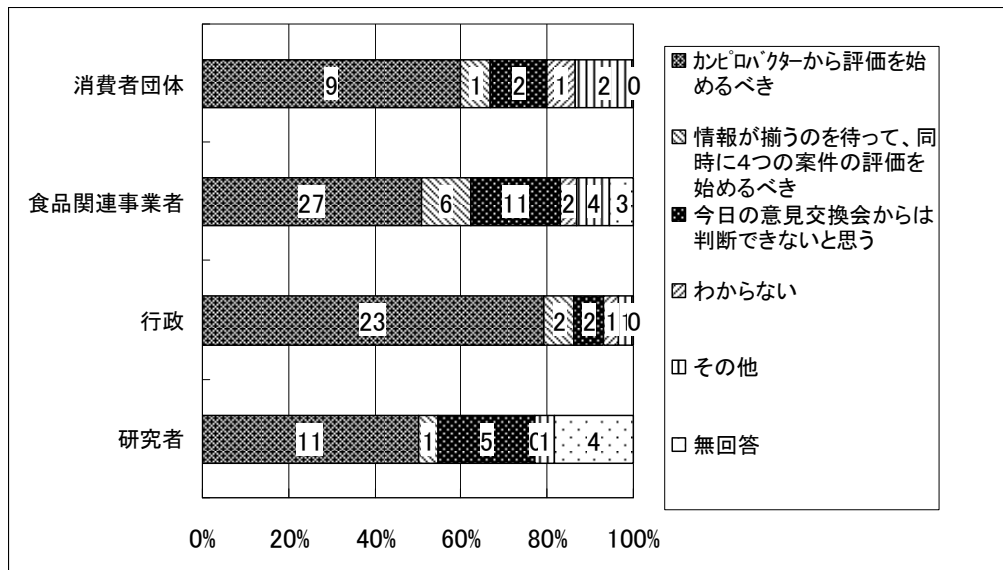
●属性により、違いがみられる。

〈”わかりにくかった”と答えた方のコメント〉

- ・パネリストの発言が「リスク評価案件の選定」というテーマからはずれたものが多かったように思う
- ・話の内容がいずれも中途半端に終わった感がある。
- ・パネルディスカッションはテーマを2~3に絞ってやらないと散漫になるのでは？
- ・パネルディスカッションにおいて各パネリストがこの場に何を求めているか、参加の目的がはっきり伝わらず、各個人の意見発表のようになって、相互作用による効果はほとんどなかった。「しっかりやる」「気を引きしめて」などの精神論はこの場にはふさわしくない。
- ・こういう場がもっともっと慣じんでくれば・・・と思いました。専門員の方、パネリスト、参加者がもっと気を楽にして話し合えるような雰囲気になればと思いました。
- ・パネルディスカッションはもう少し議論的なものになってもよいのではないかと思います。

問3 意見交換会に参加して、食品安全委員会が自らの判断により食中毒原因微生物のリスク評価の優先順位が高いとされた4つの案件のうち、鶏肉を主とする畜産物中のカンピロバクター・ジュジェニ/コリから評価を始めることについて、どのように思われましたか。





●事業者、研究者は意見交換会をもって自ら評価すべきかどうかの判断は難しいとの意見が多い。

#### 問4 評価を始める前の段階での意見交換会について

「1. 適切だと思う」と答えた方の〈自由回答〉

- ・関係者と言えども立場が異なり、評価結果が出る前の意見交換は有意義であると思う。何をするにもコミュニケーションが大切で共通認識ができると考えられる。
- ・意見交換会での他委員会との差が大きく、BSE等のリスクコミュニケーションの参加者も同席され、質の面の平準化が必要と思われる。
- ・国際的にも微生物のリスク評価法を確立するのが必要である。ここで得た技法が他のリスクに活用できるし、マスコミ、消費者のリスコミに利用できる。
- ・わざわざ会場を設けて多くの人が講義するので、通常のパブリックコメントよりも中味が濃いものと思って参加させていただいた。文字だけではわからないことが、講師、パワーポイントの説明でわかりやすかった。中村氏の発言はとても興味深い。また会場の意見（30分あってよかった）は参考になった。経費があるならば今後もこういう場を設けてほしい。
- ・日本ではじめてハイリスク児で E.Sakazakii の死亡が出たので、E.Sakazakii も忘れないでいただきたい。
- ・パネルディスカッションが始まってからの専門委員の方の中でマイクの使い方が悪いのか声が届かないような場合、会場に居られる係の方がおわりの筈ですから、マイクの使い方など気配りの無さと、ご本人の発言のなさり方の意識について、私共が申し上げ難いので気をつけて聞きやすくしていただきたい。

- ・完全な段階でなくても良い。
- ・梅雨、夏季の食中毒が増える時期の開催は適切と思う。
- ・ある程度の方向性が出て、一度オープンにすることが今後も必要になると思う。無論事後報道的なリスクは必要ないが、カオスの状態でリスクを広める必要もないと思う。
- ・リスクコミュニケーションとしてはこれからも数多くやってほしい
- ・各案件を比較するのであれば、ある程度客観的で同一の尺度を並べて比較するの如果不是科学的ではない「何となく気分でカンピロバクタを選んだ」と聞こえてしまう。
- ・すべて決定されてからの開催では意味をなさないと思う。
- ・鶏肉の生食をなくすと随分食中毒は減ると思う。
- ・食品安全委の能力の範囲で各種 Risk について情報など開示願いたい。
- ・各情報が収集できた段階で随時交換会を実施すべきである。

## 「2. 適切でない」と答えた方の〈自由回答〉

- ・リスク評価の専門的な食品安全委員会であるから評価実施後の中間報告の方が良い!! ・講演内容で情報不足が多いのには驚いた。
- ・パネリストの発言が「リスク評価案件の選定」というテーマからはずれたものが多かったように思う

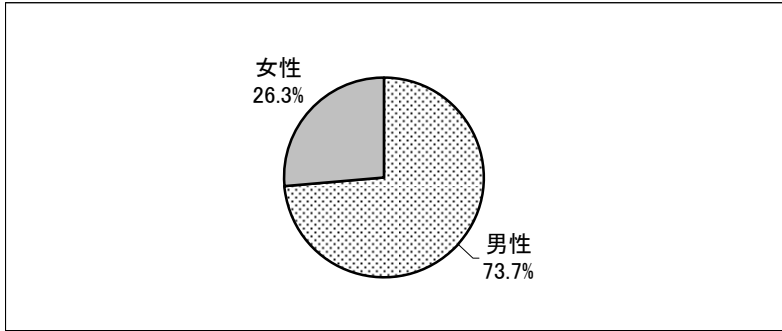
# 食品に関するリスクコミュニケーション(東京・大阪) 一食中毒原因微生物のリスク評価案件の選定に関する意見交換会— アンケート集計結果

開催日:2007年6月22日(金)・6月25日(月)

アンケート回答率: 87.9%

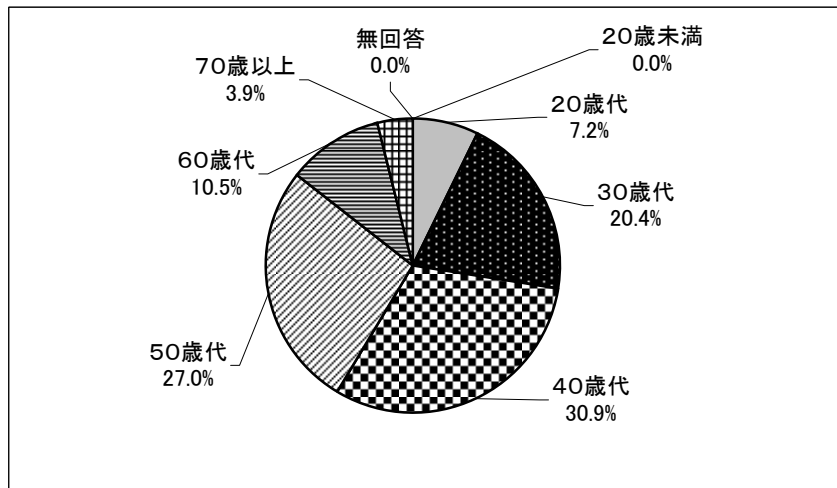
問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。  
以下の設問について、それぞれあてはまるもの1つを選んで番号を○で囲んでください。

## ①性別

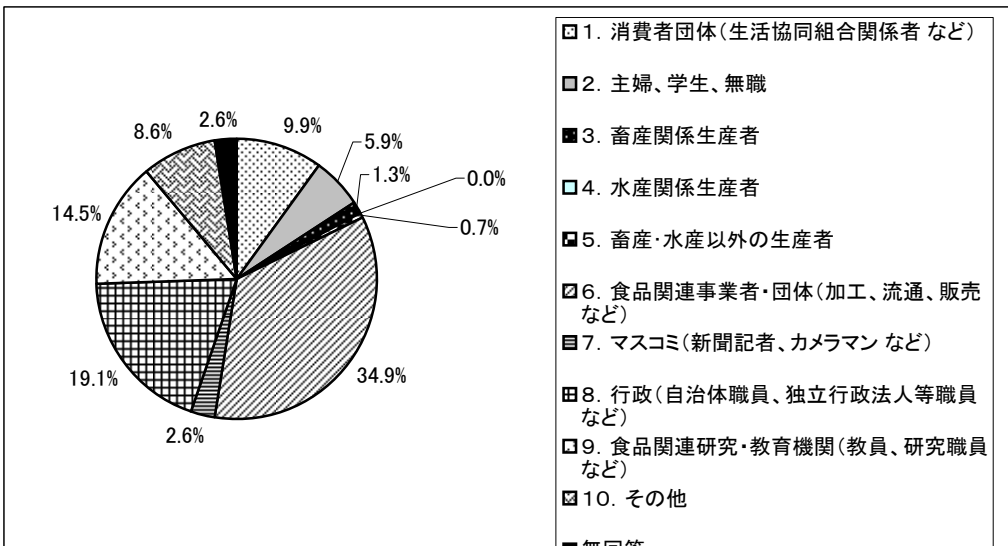


小数点以下第二位の四捨五入により、割合の合計が100にならない場合があります。

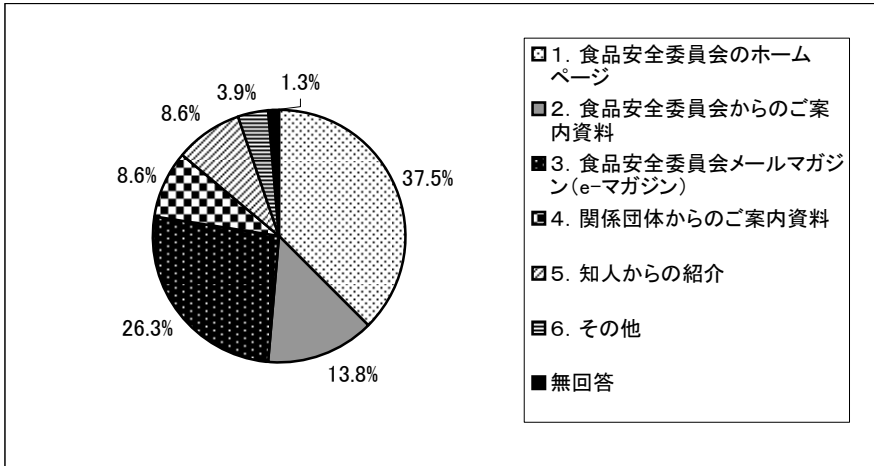
## ②年齢



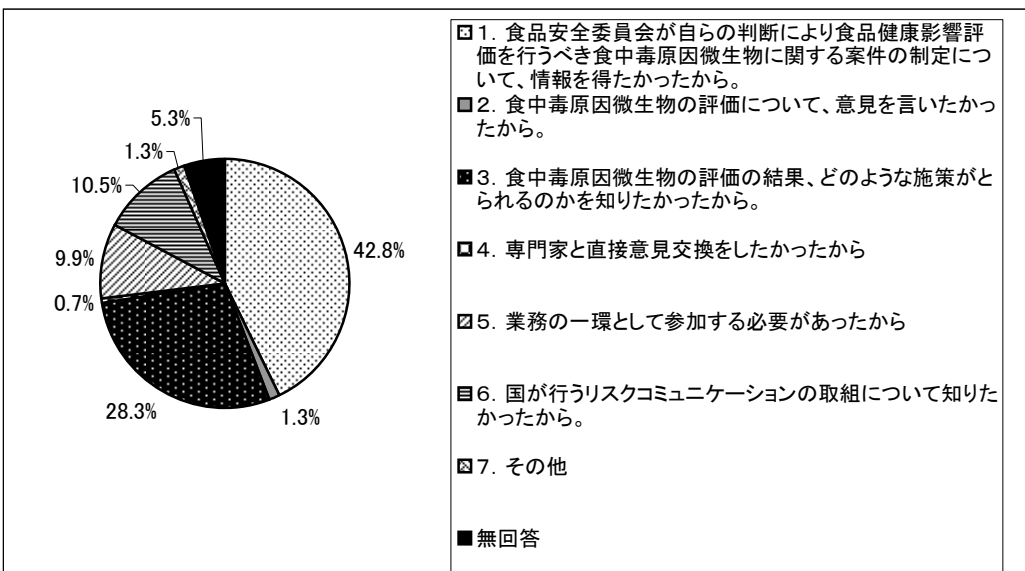
## ③職業



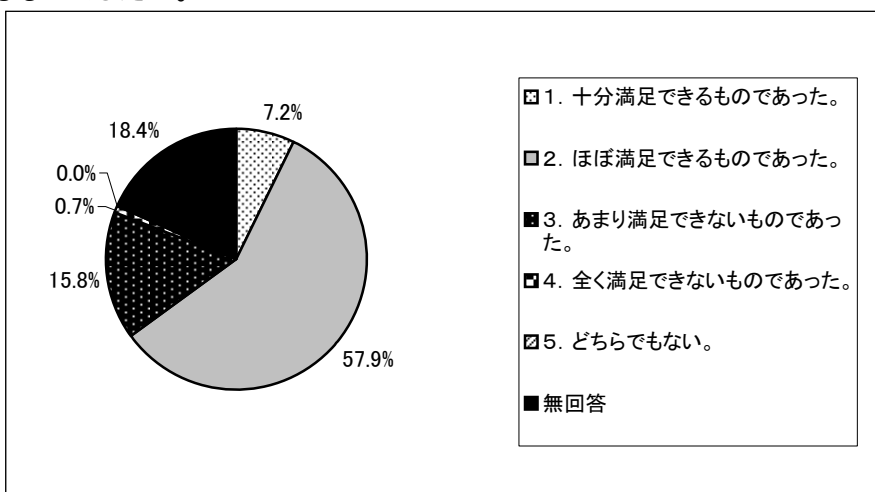
④本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか。



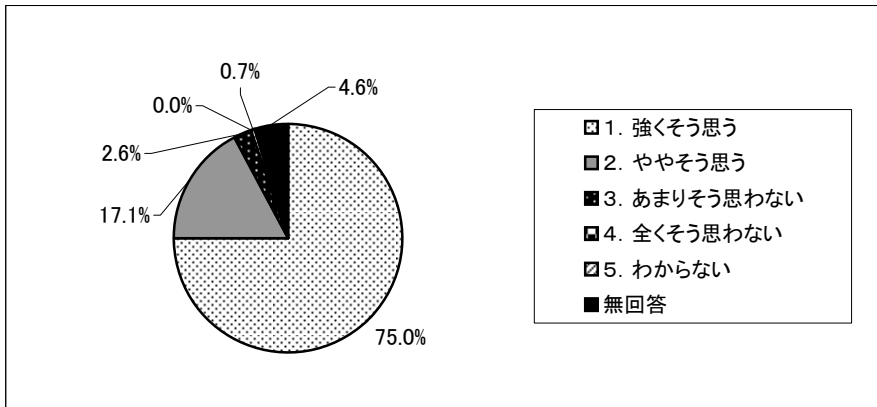
⑤本日の意見交換会に参加された目的



⑥本日の意見交換会は、⑤でお答えいただいた、ご参加の目的 に対して、どの程度満足できるものでしたか。

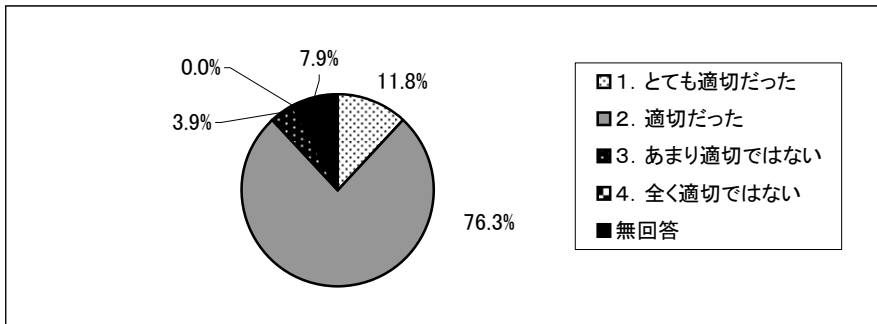


⑦国民の食生活を取り巻く変化や、食の安全に関する国際的な考え方において、どんな食品にもリスクがあるという前提で食品行政においてリスク分析手法が導入されています。あなたは「100%安全な商品はないこと」について、どう思われますか。

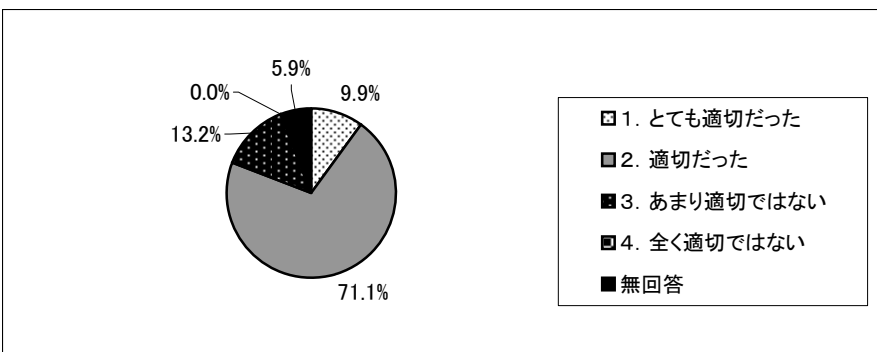


問2 本日の意見交換会についてお聞きします。それぞれあてはまるところを○で囲んでください

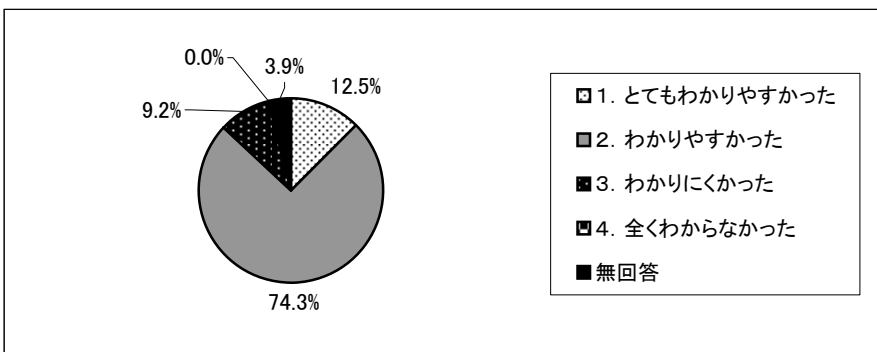
① 意見交換会開催時期



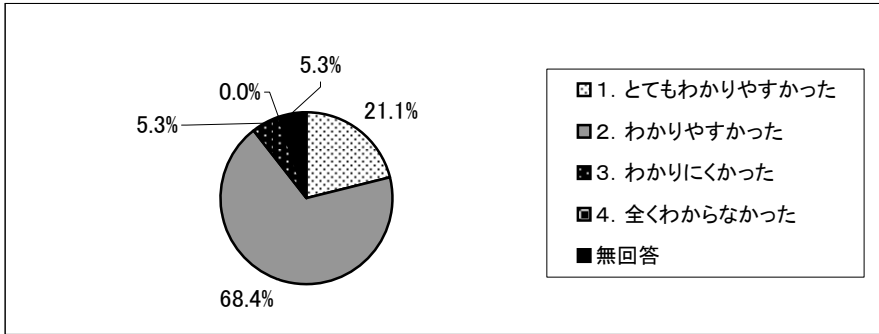
② 開催方法(参加手続き・場所・所要時間)



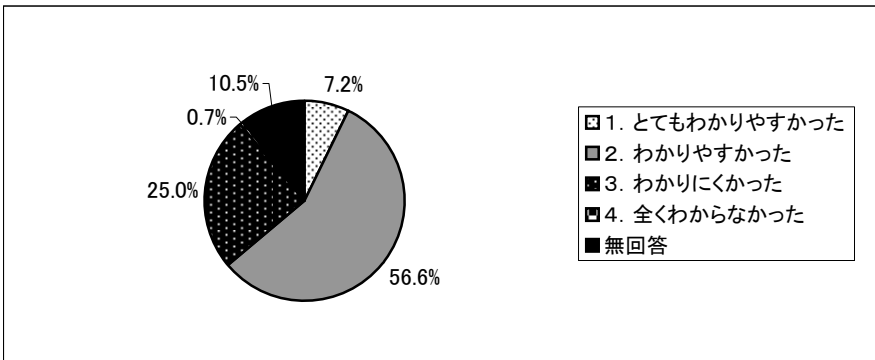
③ 配布資料



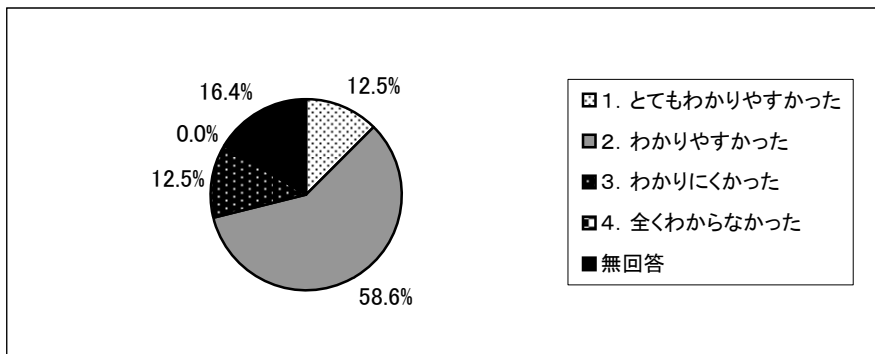
④ 専門家による講演



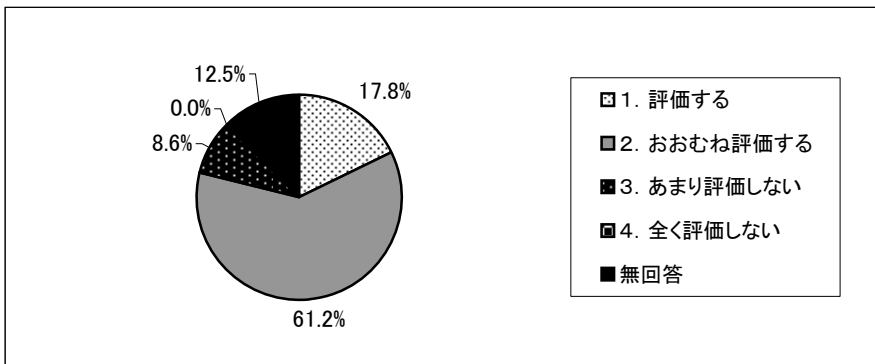
⑤ パネルディスカッション



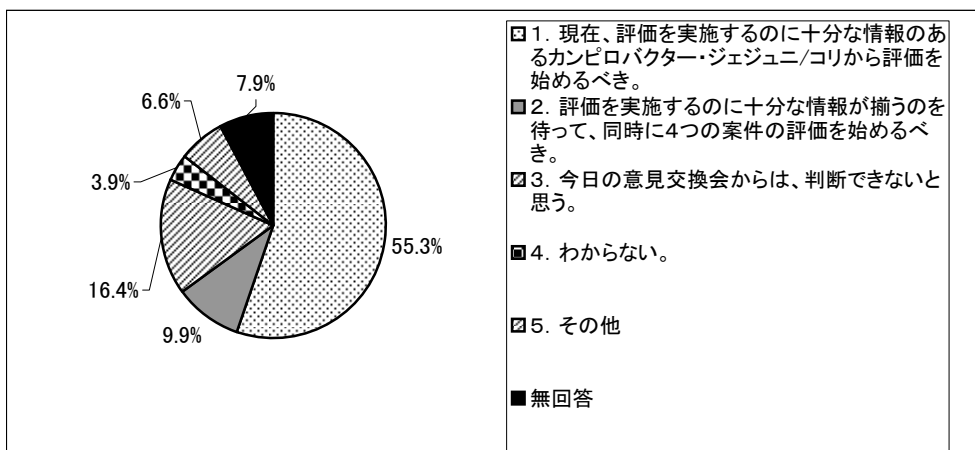
⑥ 意見交換時の応答



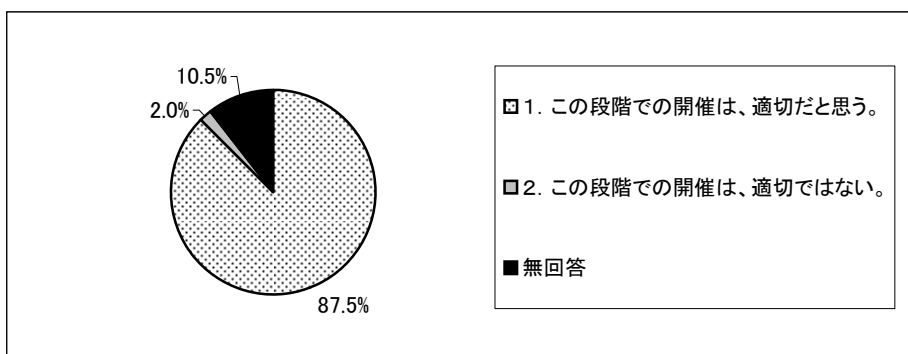
⑦ 意見交換会全体



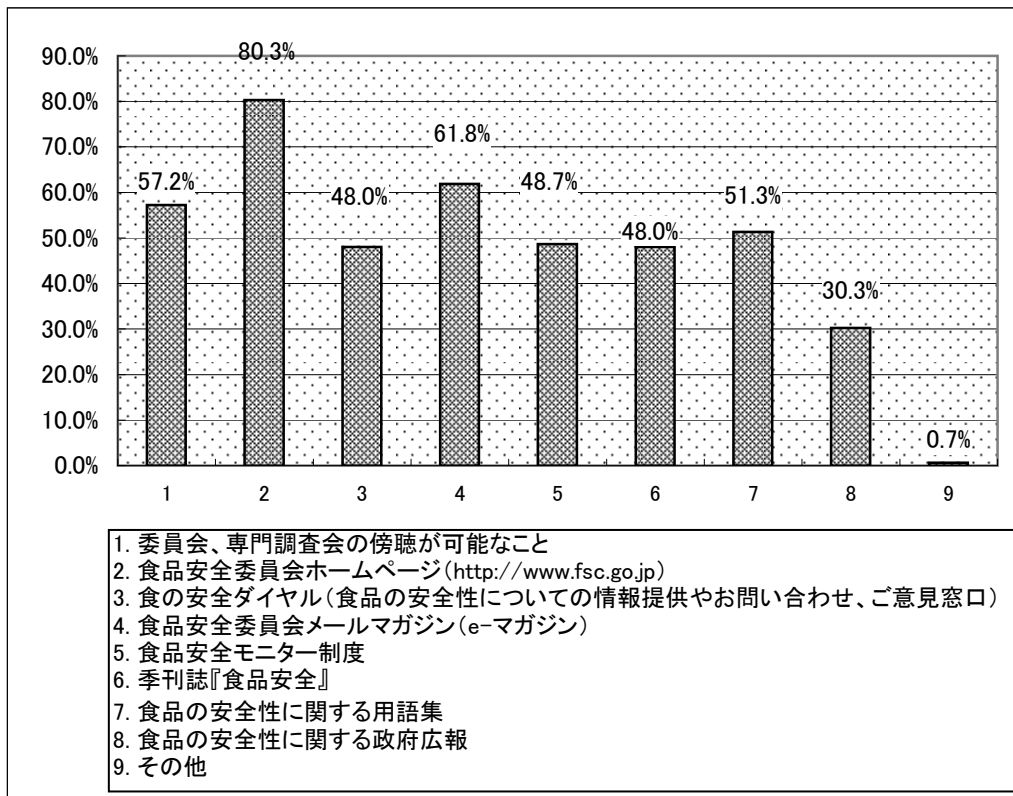
問3 食品安全委員会が自らの判断により実施する食中毒原因微生物のリスク評価の優先順位が高いとされた4つの案件のうち、鶏肉を主とする畜産物中のカンピロバクター・ジェジュニ／コリから評価を始めることについて、どう思われますか。下記から1つを選んで○をつけてください。



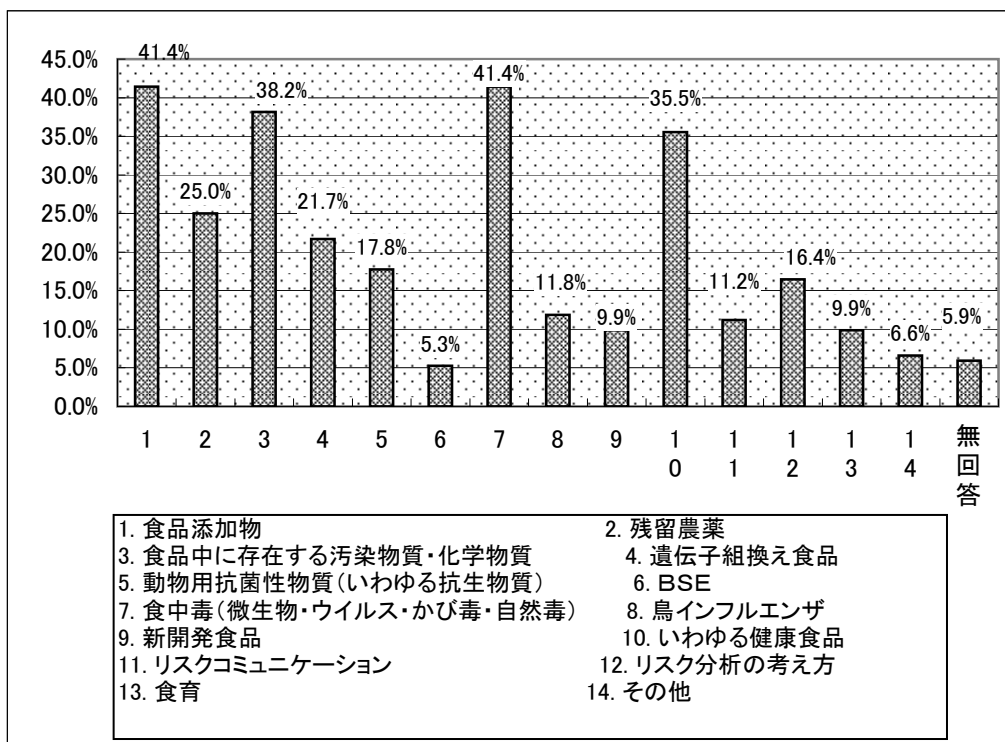
問4 今回の意見交換会は、食品安全委員会が自らの判断により食品健康影響評価を実施するに当たり、関係者の皆様と意見交換をするというものです。このように評価を始める前に意見交換会を実施することについて、どのように思われましたか。



問5 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、○をつけてください。



問6 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。当てはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。







問1



問2



問3

問4

問5

問6





あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きます。  
以下の設問について、それぞれあてはまるもの1つを選んで番号を○で囲んでください。

① 性別

回答内容	件数	割合
男性	112	73.7%
女性	40	26.3%
無回答	0	0.0%
合計	152	100.0%

② 年齢

回答内容	件数	割合
20歳未満	0	0.0%
20歳代	11	7.2%
30歳代	31	20.4%
40歳代	47	30.9%
50歳代	41	27.0%
60歳代	16	10.5%
70歳以上	6	3.9%
無回答	0	0.0%
合計	152	100.0%

③ 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	15	9.9%
2. 主婦、学生、無職	9	5.9%
3. 畜産関係生産者	2	1.3%
4. 水産関係生産者	0	0.0%
5. 畜産・水産以外の生産者	1	0.7%
6. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	53	34.9%
7. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	4	2.6%
8. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	29	19.1%
9. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	22	14.5%
10. その他	13	8.6%
無回答	4	2.6%
合計	152	100.0%

④ 本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
------	----	----

1. 食品安全委員会のホームページ	57	37.5%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	21	13.8%
3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	40	26.3%
4. 関係団体からのご案内資料	13	8.6%
5. 知人からの紹介	13	8.6%
6. その他	6	3.9%
無回答	2	1.3%
合 計	152	100.0%

⑤ 本日の意見交換会に参加された目的

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会が自らの判断により食品健康影響評価を行うべき食中毒原因微生物に関する案件の制定につ	65	42.8%
2. 食中毒原因微生物の評価について、意見を言いたかったから。	2	1.3%
3. 食中毒原因微生物の評価の結果、どのような施策がとられるのかを知りたかったから。	43	28.3%
4. 専門家と直接意見交換をしたかったから	1	0.7%
5. 業務の一環として参加する必要があったから	15	9.9%
6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから。	16	10.5%
7. その他	2	1.3%
無回答	8	5.3%
合 計	152	100.0%

⑥ 本日の意見交換会は、⑤のとお答えいただいたにたいして、ご参加の目的に対して、どの程度満足できるものでしたか

回答内容	件数	割合
1. 十分満足できるものであった。	11	7.2%
2. ほぼ満足できるものであった。	88	57.9%
3. あまり満足できないものであった。	24	15.8%
4. 全く満足できないものであった。	1	0.7%
5. どちらでもない。	0	0.0%
無回答	28	18.4%
合 計	152	100.0%

⑦国民の食生活を取り巻く変化や、食の安全に関する国際的な考え方において、どんな食品にもリスクがあるという前提で食品行政においてリスク分析手法が導入されています。あなたは「100%安全な商品はないこと」について、どう思われますか。

回答内容	件数	割合
1. 強くそう思う	114	75.0%
2. ややそう思う	26	17.1%
3. あまりそう思わない	4	2.6%
4. 全くそう思わない	0	0.0%
5. わからない	1	0.7%
無回答	7	4.6%
合 計	152	100.0%

本日の意見交換会についてお聞きします。それぞれあてはまるところを○で囲んでください

① 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	18	11.8%
2. 適切だった	116	76.3%
3. あまり適切ではない	6	3.9%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	12	7.9%
合 計	152	100.0%

② 開催方法(参加手続き・場所・所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	15	9.9%
2. 適切だった	108	71.1%
3. あまり適切ではない	20	13.2%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	9	5.9%
合 計	152	100.0%

③ 配布資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	19	12.5%
2. わかりやすかった	113	74.3%
3. わかりにくかった	14	9.2%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	6	3.9%
合 計	152	100.0%

④ 専門家による講演

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	32	21.1%
2. わかりやすかった	104	68.4%
3. わかりにくかった	8	5.3%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	8	5.3%
合計	152	100.0%

⑤ パネルディスカッション

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	11	7.2%
2. わかりやすかった	86	56.6%
3. わかりにくかった	38	25.0%
4. 全くわからなかった	1	0.7%
無回答	16	10.5%
合計	152	100.0%

⑥ 意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	19	12.5%
2. わかりやすかった	89	58.6%
3. わかりにくかった	19	12.5%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	25	16.4%
合計	152	100.0%

⑦ 意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1. 評価する	27	17.8%
2. おおむね評価する	93	61.2%
3. あまり評価しない	13	8.6%
4. 全く評価しない	0	0.0%
無回答	19	12.5%
合計	152	100.0%

食品安全委員会が自らの判断により実施する食中毒原因微生物のリスク評価の優先順位が高いと

回答内容	件数	割合
1. 現在、評価を実施するのに十分な情報のあるカンピロ	84	55.3%
2. 評価を実施するのに十分な情報が揃うのを待って、同	15	9.9%
3. 今日の意見交換会からは、判断できないと思う。	25	16.4%
4. わからない。	6	3.9%
5. その他	10	6.6%
無回答	12	7.9%
合計	152	100.0%

今回の意見交換会は、食品安全委員会が自らの判断により食品健康影  
響評価を実施するに当たり、関係者の皆様と意見交換をするというもので

回答内容	件数	割合
------	----	----

1. この段階での開催は、適切だと思う。	133	87.5%
2. この段階での開催は、適切ではない。	3	2.0%
無回答	16	10.5%
合 計	152	100.0%

以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、○をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1	87	57.2%
2	122	80.3%
3	73	48.0%
4	94	61.8%
5	74	48.7%
6	73	48.0%
7	78	51.3%
8	46	30.3%
9	1	0.7%
無回答	15	9.9%
合 計	663	

食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。当てはまるものを3つまで選び、

回答内容	件数	回答数 に対する割合
1	63	41.4%
2	38	25.0%
3	58	38.2%
4	33	21.7%
5	27	17.8%
6	8	5.3%
7	63	41.4%
8	18	11.8%
9	15	9.9%
10	54	35.5%
11	17	11.2%
12	25	16.4%
13	15	9.9%
14	10	6.6%
無回答	9	5.9%
合計	453	











:された4つ

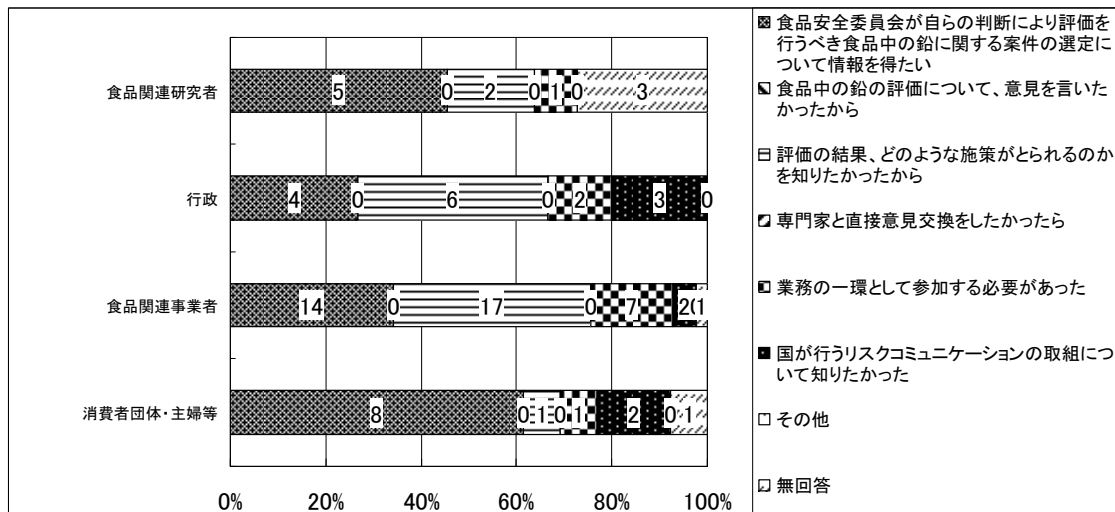
### 3. 食品中の鉛について考える

(アンケート結果を抜粋し、属性別に集計)

開催日：2008年3月19日(水)東京、26日(水)大阪

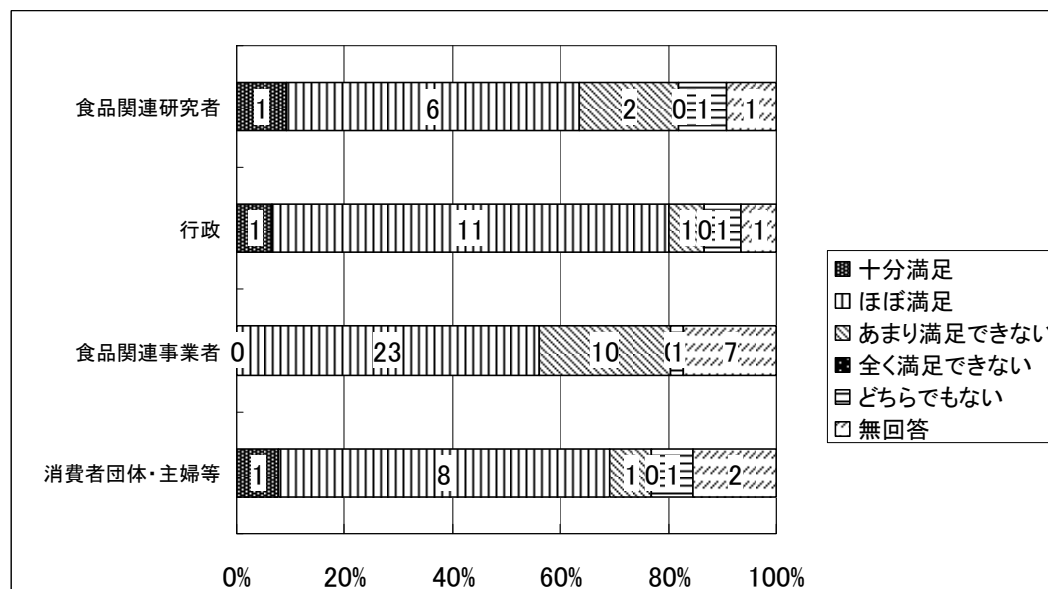
参加者：133名、 回答数：94、 回答率：70.7%

#### 問1 ⑤意見交換会への参加目的



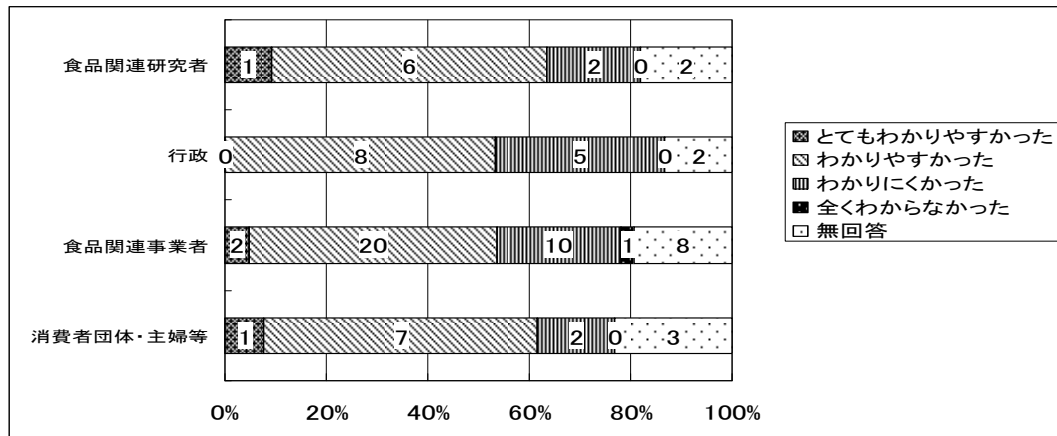
● ”意見を言いたい” ”意見交換をしたい” と答える人はいない。

#### 問1 ⑥参加目的に対する満足の種類

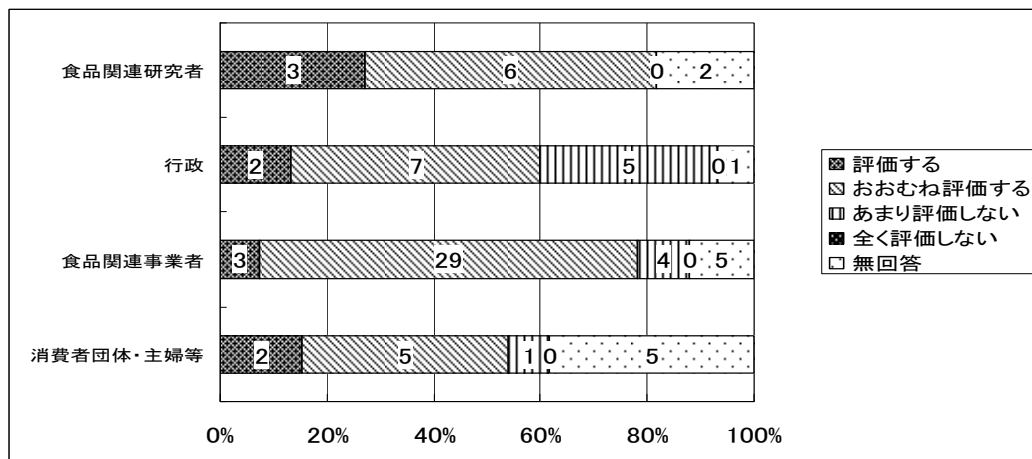


● 食品関連事業者は、”あまり満足できない”が多い傾向。

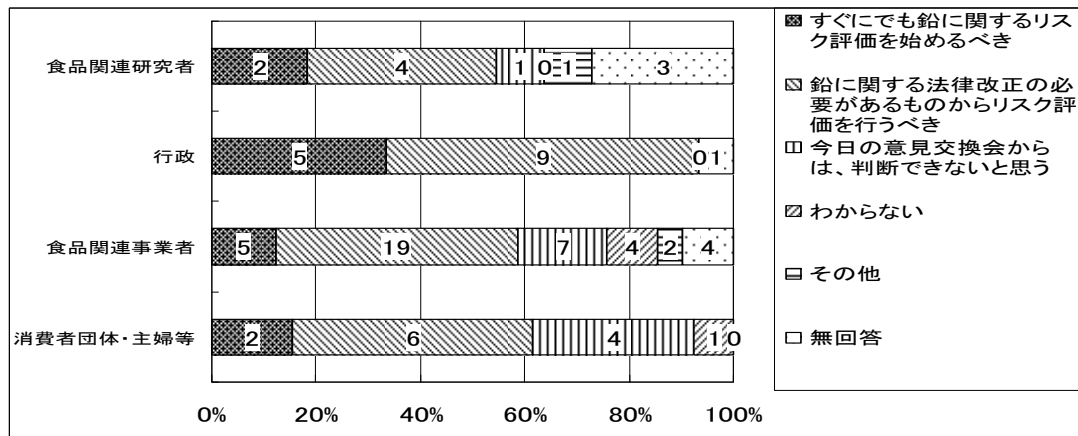
問2 ⑤意見交換時の応答について



問2 ⑥意見交換会全体について



問3 食品安全委員会が自らの判断により実施するリスク評価において、食品中の鉛に関する評価を行うことについて、どう思われますか？



- 行政は、”評価をすべき”と答える割合が高い。

#### 問4 評価を始める前の段階での意見交換会について

##### 「1. 適切だと思う」と答えた方の〈自由回答〉

- ・重金属に絞って考えるならば、土対法も既に施行されているので、食品中の重金属影響を調べる必要のある時期にきている
- ・開催すること自体はとても評価するが、あまりにも時間にゆとりがないゆえに講演者の急ぎ口調で理解できずに終わったりするので何とかしてほしかった。
- ・疫学的な情報が少ないので判断しにくい面があります。ただし、公開の場で意見交換する機会が設定されたことはよかったと思います。
- ・コーデックス委員会では2004年ということであったので適切であると思った（水道管など代替しているものが我国では一定進行しているバックがあって）
- ・今までは残農しか出たことなかったですが、時間的にもとてもちょうど良く、内容もちょうど良かったです。タイミングについては食安自ら評価としては十分良いと思います。ただ、国としては遅すぎ感が否めません。
- ・歴史的有害地等経緯があるが、p bの有用性（生体影響ではない）についても考慮に入れての規制が必要であろう。（乳幼児対象製品については、使用規格は予期せぬもの（乳幼児の行動が）があるので十分な注意が必要。）
- ・自ら評価という業務があることを知らなかった。依頼業務で多忙を極めていることと思うが、今後、自ら評価を積極的に実施していただきたい。
- ・この意見交換会の反応によっては、実施しようと考えていた評価をとりやめることもあるのでしょうか。それとも実施することは、決定済なのでしょうか？
- ・テーマ選定の考え方の一つに「評価のニーズが高いもの」という考えがある以上、事前に意見交換は適切
- ・評価前での意見交換は、評価に意見できる、参加できるということで、意義はあると思います。
- ・今回がどの段階なのか、案内から分かりずらかった。

##### 「2. 適切ではない」と答えた方の〈自由回答〉

- ・鉛の健康影響についての切迫性が伝わらなかった。
- ・何が目的だったか、目的にそったギロンになっていたのか疑問が残ったので
- ・示された情報からでは、現状が正確に認識できなかった。
- ・食品からの鉛の摂取が健康被害に影響しており何らかの規制を必要とするのではないかと誤解を与えるおそれがある。・「食品中の鉛について考える」というテーマの立て方が適切ではないのではないかと。
- ・厚労省は器具等の改正を行ったが、食品に関しては実施していない。日本では鉛の暴露が多いが以前からもあった、食品に関して何か問題があったのでしょうか？

- 主題と内容が少しずれているように思う。食品中の鉛ではなく、容器等やおもちゃ由来のPbとすべきである。また、リスク評価を十分に実施した上で、リスクコミュニケーションを実施すべきであり、ISO規格をそのまま、日本の規格基準にもってくるとするのは安易ではないか。文化、環境など異なる面もあるのではないか。



# 食品に関するリスクコミュニケーション(東京・大阪)

## —食品中の鉛について考える—

### アンケート集計結果

開催日:2008年3月19日(水)、26日(水)  
参加者数:133名 回答数:94名 回答率:70.7%

問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

#### ① 性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	58	46.3%
2. 女性	36	53.7%
無回答	0	0.0%
合計	94	100.0%

#### ② 年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	13	13.8%
3. 30歳代	17	18.1%
4. 40歳代	17	18.1%
5. 50歳代	30	31.9%
6. 60歳代	13	13.8%
7. 70歳以上	4	4.3%
無回答	0	0.0%
合計	94	100.0%

#### ③ 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	5	9.8%
2. 主婦、学生、無職	8	7.3%
3. 畜産関係生産者	0	0.0%
4. 水産関係生産者	0	0.0%
5. 畜産・水産以外の生産者	0	0.0%
6. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	41	26.8%
7. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	1	0.0%
8. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	15	24.4%
9. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	11	12.2%
10. その他	12	19.5%
無回答	1	0.0%
合計	94	100.0%

#### その他

1	電力会社
2	NGO
3	病院薬剤師
4	流通(品質管理担当)
5	廃棄物関係のNPO法人
6	分析機関
7	ISO審査員
8	食品安全モニター
9	小売業
10	幼児用品関連事業者

#### ④ 本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会のホームページ	37	29.2%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	14	19.5%

3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	25	22.0%
4. 関連団体からのご案内資料	7	9.8%
5. 知人からの紹介	7	14.6%
6. その他	2	0.0%
無回答	2	4.9%
合計	94	100.0%

⑤ 本日の意見交換会に参加された目的

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会が自らの判断により食品健康影響評価を行うべき食品中の鉛に関する案件の選定について、情報を得たかったから。	33	31.7%
2. 食品中の鉛の評価について、意見を言いたかったか	0	0.0%
3. 食品中の鉛の評価の結果、どのような施策がとられるのかを知りたかったから。	30	36.5%
4. 専門家と直接意見交換をしたかったから。	0	0.0%
5. 業務の一環として参加する必要があったから。	11	4.9%
6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りた	10	17.1%
7. その他	0	0.0%
無回答	10	9.8%
合計	94	100.0%

⑥ 本日の意見交換会は、⑤でお答えいただいた、ご参加の目的に対して、どの程度満足できるものでしたか。

回答内容	件数	割合
1. 十分満足できるものであった。	5	2.4%
2. ほぼ満足できるものであった。	54	51.2%
3. あまり満足できないものであった。	15	17.1%
4. 全く満足できないものであった。	0	0.0%
5. どちらでもない。	4	7.3%
無回答	16	22.0%
合計	94	100.0%

⑦ 国民の食生活を取り巻く変化や、食の安全に関する国際的な考え方において、どんな食品にもリスクがあるという前提で食品行政においてリスク分析手法が導入されています。あなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか。

回答内容	件数	割合
1. 強くそう思う	59	56.1%
2. ややそう思う	32	41.5%
3. あまりそう思わない	1	0.0%
4. 全くそう思わない	1	0.0%
5. わからない	0	0.0%
無回答	1	2.4%
合計	94	100.0%

問2 本日の意見交換会についてお聞きます。

① 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	3	4.9%
2. 適切だった	74	70.7%
3. あまり適切ではない	8	12.2%
4. 全く適切ではない	1	2.4%

無回答	8	9.8%
合計	94	100.0%

② 開催方法(参加手続き・場所・所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	6	2.4%
2. 適切だった	74	73.3%
3. あまり適切ではない	11	19.5%
4. 全く適切ではない	1	2.4%
無回答	2	2.4%
合計	94	100.0%

③ 配布資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	7	7.3%
2. わかりやすかった	78	75.7%
3. わかりにくかった	7	14.6%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	2	2.4%
合計	94	100.0%

④ 専門家による講演

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	10	9.8%
2. わかりやすかった	72	68.3%
3. わかりにくかった	11	19.5%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	1	2.4%
合計	94	100.0%

⑤ 意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	4	2.4%
2. わかりやすかった	48	43.9%
3. わかりにくかった	23	34.2%
4. 全くわからなかった	1	2.4%
無回答	18	17.1%
合計	94	100.0%

⑥ 意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1. 評価する	12	9.8%
2. おおむね評価する	54	56.1%
3. あまり評価しない	13	19.5%
4. 全く評価しない	0	0.0%
無回答	15	14.6%
合計	94	100.0%

問3 食品安全委員会が自らの判断により実施するリスク評価において、食品中の鉛に関する評価を行うことについて、どう思われますか。

回答内容	件数	割合
1. すぐにでも食品中の鉛に関してリスク評価を始めるべき。	19	22.0%
2. 鉛に関する法律改正の必要があるものからリスク評価を行うべき。	42	43.9%
3. 今日の意見交換会からは、判断できないと思う。	15	14.6%

4. わからない。	5	7.3%
5. その他	4	4.9%
無回答	9	7.3%
合計	94	100.0%

問4 今回の意見交換会は、食品安全委員会が自らの判断により食品健康影響評価を実施するに当たり、関係者の皆様と意見交換をするというものです。このように評価を始める前に意見交換会を実施することについてどのように思われましたか。

回答内容	件数	割合
1. この段階での開催は、適切だと思う。	80	87.8%
2. この段階での開催は、適切ではない。	7	4.9%
無回答	7	7.3%
合計	94	100.0%

## ② 自由記入欄

- 1 重金属に絞って考えるならば、土対法も既に施行されているので、食品中の重金属影響を調べる必要のある時期にきている
- 2 開催すること自体はとも評価するが、あまりにも時間にゆとりがないゆえに講演者の急ぎ口調で理解できずに終わったりするので何とかしてほしい。
- 3 疫学的な情報が少ないので判断しにくい面があります。ただし、公開の場で意見交換する機会が設定されたことはよかったですと思います。
- 4 コーデックス委員会では2004年ということであったので適切であると思った(水道管など代替しているものが我国では一定進行しているバックがあって)
- 5 今までは残農しか出たことなかったですが、時間的にもとてもちょうど良く、内容もとても良かったです。タイミングについては食安自ら評価としては十分良いと思います。ただ、国としては遅すぎ感が否めません。
- 6 リスク評価の多さ、大変な作業だなと思った。ゴールが楽しみです
- 7 鉛の健康影響についての切迫性が伝わらなかった。
- 8 歴史的有害地等経緯があるが、pbの有用性(生体影響ではない)についても考慮に入れての規制が必要であろう。(乳幼児対象製品については、使用規格は予期せぬもの(乳幼児の行動が)があるので十分な注意が必要。)
- 9 自ら評価という業務があることを知らなかった。依頼業務で多忙を極めていることと思うが、今後、自ら評価を積極的に実施していただきたい。
- 10 1の通りだと思います。
- 11 この意見交換会の反応によっては、実施しようと考えていた評価をとりやめることもあるのでしょうか。それとも実施することは、決定済なのでしょうか？
- 12 テーマ選定の考え方の一つに「評価のニーズが高いもの」という考えがある以上、事前に意見交換は適切
- 13 評価前での意見交換は、評価に意見できる、参加できるということで、意義はあると思います。
- 14 今回がどの段階なのか、案内から分かりづらかった。
- 15 何が目的だったか、目的にそったギロンになっていたのか疑問が残ったので
- 16 示された情報からでは、現状が正確に認識できなかった。
- 17 ・食品からの鉛の摂取が健康被害に影響しており何らかの規制を必要とするのではないかと誤解を与えるおそれがある。  
・「食品中の鉛について考える」というテーマの立て方が適切ではないのではないか。
- 18 厚労省は器具等の改正を行ったが、食品に関しては実施していない。日本では鉛の暴露が多いが以前からもあった、食品に関して何か問題があったのでしょうか？

19

主題と内容が少しずれているように思う。食品中の鉛ではなく、容器等やおもちゃ由来のPbとすべきである。また、リスク評価を十分に実施した上で、リスクコミュニケーションを実施すべきであり、ISO規格をそのまま、日本の規格基準にもってくるというのは安易ではないか。文化、環境など異なる面もあるのではないか。

問5 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、○をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと (原則公開されていること)	52	13.7%
2. 食品安全委員会ホームページ( <a href="http://www.fsc.go.jp">http://www.fsc.go.jp</a> )	72	18.9%
3. 食の安全ダイヤル(食品の安全性についての情報提供 やお問い合わせ、ご意見を受付ける窓口)	45	11.8%
4. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	49	12.9%
5. 食品安全モニター制度	45	11.8%
6. 季刊誌『食品安全』	41	10.8%
7. 食品の安全性に関する用語集	44	11.6%
8. 食品の安全性に関する政府広報	18	4.7%
9. その他	1	0.3%
無回答	13	3.4%
合計	380	100.0%

問6 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。当てはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

回答内容		回答者数に対する割合
1. 食品添加物	18	22.0%
2. 残留農薬	21	26.8%
3. 食品中に存在する汚染物質・化学物質	41	36.5%
4. 遺伝子組換え食品	13	22.0%
5. 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)	16	17.1%
6. BSE	3	7.3%
7. 食中毒(微生物・ウイルス・かび毒・自然毒)	24	19.5%
8. 鳥インフルエンザ	10	9.8%
9. 新開発食品	16	19.5%
10. いわゆる健康食品	28	31.7%
11. リスクコミュニケーション	15	12.2%
12. リスク分析の考え方	17	17.1%
13. 食育	9	9.8%
14. その他	5	4.9%
無回答	6	7.3%
合計	242	-

その他

1	加工食品(中)の評価
2	タバコ
3	食品リスクの根源としての、食料自給率対策
4	「中国産」という(風評について)言葉について
5	サプリメント

問7 上記で選択したものを含め、会全体を通してご意見やご感想がございましたらご記入ください。

1	リスク評価をするにあたって特に気になるのは、普段の生活の分と事故(子供が飲み込む)等は別の話だと思います。法規制としては「おもちゃ」というカテゴリがあまりに判りにくいです。規制が増える中、かなり不思議です。実際、私が経験した中では携帯ストラップ等のカニカンがロット差がはげしいですがすごく鉛が含まれているものがあるので気になってます。あと公官庁さんの都合のいいタテ割り話はリスコミでみなさんに話しても反感しか返ってこないのに…と残念に思いました。
2	不要な資材の返却というのはとてもいいと思います。重複して、処分していましたから。
3	少し、本筋からはずれるかもしれませんが(1)犬などのペット用のぬいぐるみの鉛は考慮されますか(2)乳幼児が、犬といっしょにペット用のぬいぐるみで遊んでいることをよくみかけますので
4	さいごの方の質問とご意見は、まったくその通りだと思う。何のためのリスコミなのか、大変貴重な意見で、評価をする際には是非考慮していただきたい事項である。
5	講師による鉛の基礎知識が古い。新しい知見や国際的な情報をきちんと市民に伝えるべきである。リスク評価とは何かを最初に説明し、何を問題とするのか説明しないとコミュニケーションがとれない。食品安全委員会のリスクコミュニケーションのレベルの低さに驚いた。
6	リスク評価の手法がまだまだ認知されていないと思った。さらなるPRが必要ではないか。
7	鉛のことは余り身近に感じてなくて新たに意識するようになりました。
8	科学的根拠やデータなどが挙げられていなかったので背景についてはわかりましたが、どのくらいの健康影響があるのかについてはあまり理解出来なかった。
9	今回は鉛をピックアップされていたが、鉛の基礎的な情報も大切ではあるが、摂取上限量など実際に食品を摂取することを想定した数値等の設定根拠について教えてほしかった。それから、安易な発言はよくないと思います
10	食品安全委員会のリスクコミュニケーションはもっと
11	余談ですが資料のホッチキスは社内に入れる前にはずして持ち帰ります。食品にホッチキス(鉛?)は基本的に危ないです。
12	・鉛の人体へ寄与は経口>吸入という理解で良いか?・食品中の鉛濃度とは、調理段階も含めた評価がされるのか?
13	食品衛生法の規格基準については制定された行きさつが分からないものが多い。こういった法律を改正するにあたってその辺りをもっと国民に周知して頂きたいです。その点に関してのHP等での情報もまだまだ一般国民には分かりにくいです。改正のいきさつ(どうして法律で規制しないといけなかったのか)が分からないと、危害分析する上でも困ることがあります。
14	食品安全委員会の食品安全性に対するとり組みへの日々御尽力がうかがえた。これまでの公開講演会のうち最も具体的に明解に、学問的根拠によるものであった、と思う。今後もこのような催しがなされることを期待いたします。
15	鉛の摂取量の安全への影響は、年齢ごとやハイリスクグループ等、グループごとのPTWIに対する充足率?を示して欲しい。さらに、平均ではなく95%タイル、99%タイル等も必要だと思います。
16	自ら評価についてもリスク管理(リスク評価の出口)を踏まえたものとする必要があると考える。
17	食品のトレサビリティの方法(信頼性を得られるものか)(消費者が納得できる説明か)

18	残留農薬、最近輸入食品のなかでも中国からの食品(生野菜、加工食品、冷凍物)についての不祥事も多いことから、ポリティブリスト制も含め、総括的リスクコミュニケーションのテーマとして取あげて頂ければと思います。(輸入食品化学検査のしくみ等も)
19	講演に関する質問が多く、食品中の鉛評価に関する意見がなかった。主旨からして、意見をもとめていった方がよかったのではないか。
20	通常の食生活では健康被害はでないということですが、そうなるとリスク評価をする必要性はあるのでしょうか？リスク評価をしたところで食品の規格をつくるのが難しいとすれば、どこで規制するのですか？PTWIに対して食品から摂取する鉛は何%におさえたい等目標はありますか？
21	鉛の規格について、現行 $1\mu\text{g}/\text{ml}$ と改正後、 $90\text{mg}/\text{kg}$ の整合性は？この規格と米国C PSCの溶出 $0.06\%$ 含有の $75\mu\text{g}/\text{g}$ との整合性は？
22	鉛のリスクについてよく理解できました。一般の方へのリスクコミュニケーションの重要性を考えながら聞いておりました。法での規制の範囲であっても、リスクを強く感じる市民もおられますので。おもちゃを入れる家具:おもちゃ箱が対象に入るのかどうか明確に願います。
23	一般消費者へ、不安にならない様な情報の出し方を希望します。(日常生活における鉛の問題などを具体的にお願います)
24	食品の鉛に対する自己評価は賛成。今回の説明ではおもちゃなど限定されたもののみだったが、これを一般食品まで広げるのか、どこまで本格的に取り組むのかの説明がいま一つ不十分。明確な基準ができないと思われるので食品については過度の規格設定をしないことを望みます。
25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の検討がなされているようだが、情報公開に先がけている食品安全委員会にがんばってほしい。</li> <li>・ワイドショーのような番組の報道を科学的にふりかえって判断するしくみをTV局等に要請してはどうか。</li> <li>・今回は国際的基準にあわせるための改正と思うが、日本人ならではの食生活で危ないヒ素やCdも検討にはいってほしい。</li> </ul>
26	特殊な食品を除き、鉛が高濃度に含まれる加工食品はないと思う。食品に関しては、何故今？と感じる。



























